



果樹ドローン活用試験



トマトの現地指導



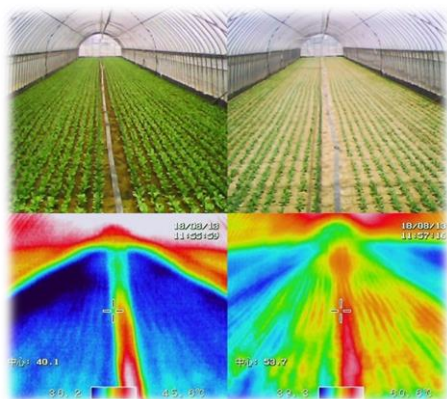
乳牛の自動給餌機

令和2年度

 **福岡県**
Fukuoka Prefecture

普及活動成果集

久留米普及指導センター



被覆資材の違いによる地温測定



新規就農者営農基礎講座



直進アシスト付き田植え機



生花の消費拡大PR

はじめに

久留米普及指導センター管内は、筑後川中・下流域の肥沃な平坦地域で米・麦・大豆のほか、野菜、花き、畜産など、また、耳納山麓地域では、カキをはじめとする果樹や花木、茶などが生産され、平成30年農業産出額は463億円と県の22%を占める県内屈指の農業地帯であります。

この生産は、雇用労働力を活用した大規模経営や、集落営農、新規就農者等の多様な担い手が支えており、地域農業の更なる発展が期待されています。

県では、平成29年3月に「福岡県農林水産振興基本計画」を策定し、その達成に向けて各種の施策を展開しています。当普及指導センターでは、この基本計画に則して普及指導計画を定め、市町、JAをはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザー等と連携して普及活動を展開しています。

令和2年度の普及活動は、「もっと輝く！もっと活力と魅力あふれる！久留米の農業へ」をスローガンに掲げ、3つのプロジェクト課題と16の係課題を設定し、活動に取り組んできました。しかし、年度当初から、新型コロナウイルス感染症の拡大により、外食向けの野菜や、畜産、花き等において需要低迷等の影響を大きく受けました。また、7月の度重なる豪雨や9月の台風による作物被害のほか、栽培施設や農業機械にも大きな被害が発生しました。多くの農家が経営的な打撃を受け、農業生産にとっては非常に厳しい状況となりました。

このため、現場の普及活動においても、感染対策を考慮した活動方法を模索するほか、気象変動に対応した技術対策や、経営相談会での資金対応など、生産と経営の安定化に向けて全力で取り組んで参りました。また、このようなリスク対応の他、今後の新たな経営の柱となる「スマート農業」の推進や、担い手の確保・育成対策も強化しました。

この冊子は、これまでの取組みにより令和2年度までに一定の成果が上がったものを取りまとめたものです。いずれも農家リーダーの皆様、市町・JAなど関係機関団体の皆様との連携活動によって成し得たものです。ここに改めてお礼を申し上げます。

今後とも農業者の皆さんの経営の発展、久留米地域農業・農村の振興に向けて所員一丸となって取り組んで参りますので、引き続き普及活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和3年3月

朝倉農林事務所久留米普及指導センター長 仁田原 靖子

目次

1 普及活動の成果

(1)	産地を牽引するトップ農家の育成による久留米地域の農業振興	1
(2)	スマート農業による経営効率化とモデル経営の育成	2
(3)	中山間地園芸農業の新しい形を作る	3
(4)	新規就農者の確保と青年農業者の育成	5
(5)	女性農業者の育成	6
(6)	水田農業の担い手の収入向上と経営改善	7
(7)	葉菜類の夏期における安定生産	8
(8)	ICT技術を活用した「あまおう」の収量向上と新規就農者の経営確立	9
(9)	花き花木及び鉢物の生産振興	10
(10)	経営感覚に優れる花き・花木の青年農業者の育成	11
(11)	市場ニーズに対応したブドウの種なし栽培の推進	12
(12)	酪農経営における新規就農者の定着	13

2 トピックス（注目の活動・技術の紹介）

(1)	ドローンを活用した麦赤かび病防除効果と作業効率の確認	14
(2)	葉菜類を生産する新規就農者の経営確立	15
(3)	産地全体の技術力向上を目指しトマトの勉強会を開始	15
(4)	柿園地におけるスマート農業を推進	16
(5)	第1回繁殖雌牛集合審査会を開催	16

3 参考資料

(1)	受賞実績	17
(2)	気象の概況	20
(3)	主な展示ほ概要	23
(4)	普及指導センター活動情報一覧	25
(5)	普及指導センターの活動体制	27

1 産地を牽引するトップ農家の育成による 久留米地域の農業振興

実施期間：平成31年度～令和3年度

久留米地域における普通作、野菜、畜産部門の1戸当たり販売金額は増加傾向にあります。更に販売高を飛躍的に伸ばし、産地のモデルケースとなる、トップ農家育成のための経営発展支援を実施しました。果樹、花きでは、雇成型経営の実現を目指し、複合化などの経営指標を作成しました。また次世代のリーダー育成のため、外部講師の招聘等により経営発展につながる研修を行いました。

対象の概況

販売高 2 千万円以上	個別12 集落営農法人 3
販売高 2 千万円以下 かつ50歳以下	果樹 4 花き 1
青年農業者	JAくるめ青年部 認定新規就農者 女性青年農業者

活動の内容

(1) トップ農家の育成

- ・JAくるめ、市との連携により、前年度選定した20経営体に対して、経営分析、事業計画見直し等、販売高目標の達成のための支援を実施
- ・果樹、花きにおける技術支援と新規作型、新規品目の導入を提案

(2) 青年農業者の経営管理能力向上

- ・JAくるめ、市と連携し、受講生のニーズに沿った体験型研修会を実施
- ・若手女性農業者を対象にマーケティングや食品加工等の研修会を実施



マーケティング研修会



機械安全管理研修会

成果

(1) トップ農家の育成

- ・課題となっていた夏場の補完品目導入や作付計画見直し等、行動計画の実践
- ・2品目（ナシ、電照菊）の経営指標改良

(2) 青年農業者への経営管理能力向上

- ・受講者の経営改善意欲の向上
- ・若手女性農業者のネットワークの構築



青年農業者研修アンケートより抜粋

今後の取組

販売高目標の達成に向けた技術・経営改善支援を継続して行います。

新技術・新規品目導入など、成果が得られた新たな取組の地域への波及や青年農業者への支援を継続します。

2 スマート農業による経営効率化とモデル経営の育成

実施期間：令和1～3年度

葉菜類の企業経営では、生産、経営、労務管理などの高度な運営が重要です。そこで、IoT、AI等のスマート農業技術を利用し、経営改善を支援しました。

企業的経営においては、規模拡大や法人化、持続的経営においては、計画的な生産による収益の確保が必要です。そこで、個々の経営目標を達成できるよう技術及び経営支援を行い地域のモデルとなる経営体を育成しています。

対象の概況

JAみい管内認定農業者 444経営体

JAみい青年部 100人

三井地区集落営農組織 46組織

スマート農業導入

・企業型経営体 3経営体

・JAみい小松菜部会

モデル経営体及び経営課題

経営課題	モデル経営タイプ	数
事業拡大、販売	企業経営	2
規模拡大、法人化	企業的経営	3
生産安定	持続的経営	2

活動の内容

(1) スマート農業等の導入による経営及び生産管理技術の改善

- ・スマート農業技術検討会議
- ・ICT導入検討会
- ・ICT導入経営体でのデータ解析、調査
- ・ICTデータ活用検討会

(2) タイプ別モデル経営体の経営安定、発展

- ・経営、労務管理研修会
- ・経営発展に関する情報提供（補助事業等）
- ・園芸経営体支援
- ・夏季経営安定展示ほ



チンゲンサイ耐暑性品種試験

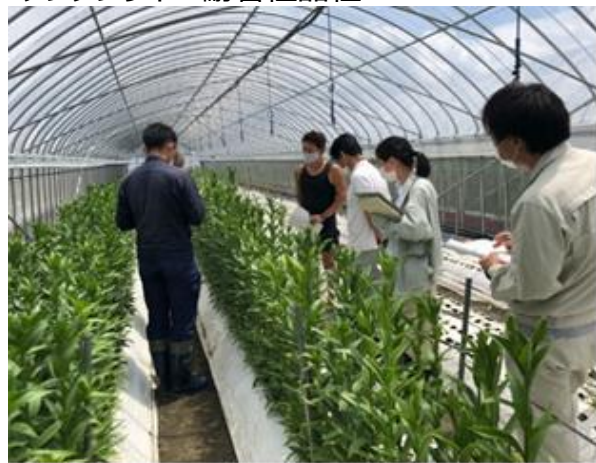
成果

(1) スマート農業等の導入による経営及び生産管理技術の改善

- ・生産管理システム「AICA」、細霧防除システム「クールミスティHA2型」、「ホウレンソウ掘取機」などを設置し、作業効率が1.2倍向上することを実証
- ・JAみい小松菜部会でICTシステム「アグリアイ」を13名が利用し、在庫管理を電子化

(2) タイプ別モデル経営体の経営安定、発展

- ・2経営体が目標を達成
- シンテッポウユリ：新規導入
- チンゲンサイ：耐暑性品種



シンテッポウユリほ場巡回

今後の取組

生産管理システム「AICA」が果菜類、根菜類で使用できるよう支援します。また、導入希望者に講習会を行い普及を図ります。

JAみい生産部会にGAP対応して「アグリアイ」システム導入を推進していきます。

モデル経営体ごとの目標達成に向け引き続き支援を行います。

3 中山間地園芸農業の新しい形を作る

実施期間：令和2～4年度

JAにじ管内は、平坦地では野菜や花などの施設園芸が、中山間地にかけては果樹栽培が盛んな地域です。しかし、生産者の高齢化に伴って農家戸数が減少し産地規模の縮小が続いています。

このため、今後の地域を牽引する経営体の育成、果樹優良園地の流動化及び施設園芸における遊休施設の有効活用を図るために、推進体制を整備してモデル経営体の育成や遊休化が懸念される優良園地の台帳整備、短期雇用を含む労力補完のシステム作り、将来の産地を担う新規就農者確保のための取組を行いました。

対象の概況

- ・(株)うきはレインボーファーム（新規就農者研修、農地中間保有）
- ・新規就農希望者（独立就農、親元就農、雇用就農）
- ・主要な生産部会及びモデル経営体数

品目	生産部会員数（人）	モデル経営体数（人）
トマト	47	2
イチゴ	52	2
花き	31	2
カキ	504	7
ブドウ	214	8

生産部会員数はR2年3月末現在

活動の内容

(1) 推進体制の整備

- ・JAにじ管内アグリコネクト協議会の設立

(2) モデル経営体の育成

- ・モデル経営体への個別支援（21戸）
- ・主要な生産部会員への経営意向調査の実施
- ・優良園地台帳の整備
園地台帳を活用したマッチングの実施
- ・雇用労力補完システムの構築
労働力支援会社と連携して、農繁期におけるスポット雇用の導入効果を実証。
- ・雇用研修会の実施

(3) 新規就農者の確保育成

- ・新規就農者受入れのための研修メニュー作成
- ・県農業大学校において就農セミナーを実施。
- ・就農相談会への参加（他機関主催）
- ・トレーナー研修の実施



成 果

(1) 推進体制の整備

・アグリコネクト協議会を設立

(株)うきはレインボーファーム、JAにじ、うきは市、久留米普及指導センターで協議会を設立し、定例的な会議を実施。

(2) モデル経営体の育成

・経営改善計画の策定

トマト、イチゴ、花き、カキ、ブドウで地域のモデルとなる21経営体を選定して改善目標及び行動計画を設定し、相談会等で個別指導を行った結果、4経営体が目標を達成。

・新規雇用の導入

個別支援の結果、新たに2経営体（イチゴ、カキ）が雇用を導入。

・園地台帳の整備

カキ及びブドウでは経営縮小や離農意向を持つ生産者が所有する優良園地の情報を整備し、規模拡大志向農家とのマッチングを行った結果、3件（74a）の流動化が成立。

・雇用補完システムの構築

カキの収穫最盛期に、労働力支援会社の作業員によるスポット雇用の検証を行った結果、8割程度の生産者が、他の管理作業も含めて今後も活用したいとの意向。

(3) 新規就農者の確保育成

・新規就農者の確保

就農相談会の結果、新たに3戸（カキ：2戸、トマト：1戸）が就農。

・新規就農者受入れのための研修メニュー作成

主要2品目（イチゴ、カキ）で、長期及び短期の研修メニューを作成。

・トレーナーの育成

新規就農者に切花を指導するトレーナー1名を選定。



個別経営指導（トマト）



新規雇用導入のための研修会

今後の取組

令和2年4月に設立したアグリコネクト協議会を核として、園地流動化による中山間地域の活性化や新規就農者の確保・育成に継続して取り組んでいきます。

このために、カキ及びブドウの優良園地をまとめた園地台帳に空ハウスなどの遊休施設も加えて、規模拡大農家や新規参入希望者が活用できるように更新していきます。

また、農業次世代人材投資事業で、JAにじ管内の受入れ品目を拡大し、幅広い受入れが出来るように体制を充実させます。

新規就農者の確保と青年農業者の育成

実施期間：平成30年度～令和2年度

新規参入者の多くは、農地や施設の確保、資金調達、品目の選定、技術習得など様々な課題を抱えているため、就農相談から経営安定・定着まで、関係機関と連携して継続的な支援を行いました。

さらに、当地域の農業を担う人材である4 Hクラブ員が取り組むプロジェクト活動や経営者としての意識醸成を促す支援を行いました。

対象の概況

新規就農希望者 (H27～29平均)	75名/年
新規就農者 (H26～30合計)	208名
4 Hクラブ員(R1) 6クラブ	72名

活動の内容

(1) 新規就農者の確保

- ・ 就農相談会の開催
- ・ 就農計画の作成支援
- ・ 技術習得のための農家研修支援

(2) 新規就農者・青年農業者の育成

- ・ 営農基礎講座の開催
(肥料・農薬・品目別相談会、農業機械、農業簿記)
- ・ 就農状況の把握及び個別農家への支援
- ・ プロジェクト活動支援



プロジェクト活動発表

成果

(1) 新規就農者の確保

- ・ 関係機関と連携して、就農相談会の開催や就農計画の作成支援を行った結果、新規就農者が増加

(2) 新規就農者・青年農業者の育成

- ・ 営農基礎講座や経営・技術支援により、新規就農者の育成・定着が図られた。
(就農5年目までの営農継続率99%)
(経営開始型交付者の目標達成率52%)



営農基礎講座
(農業機械の基本操作)

今後の取組

市町、JAなど関係機関と連携して、研修会の開催や個別支援を通じて、新規就農者の早期の経営安定化・定着を目指します。

女性農業者の育成

実施期間：平成30年度～令和2年度

女性農業者は、地域や生活に根付いた消費者としての視点を有しています。今後の農業経営の新たな展開のためには、女性農業者も積極的に経営参画し、その能力を最大限発揮することが必要です。

そのため、意欲のある女性農業者を対象に、経営参画に必要な知識や技術の習得をはかるための各種研修会の開催や起業に向けた取組みを支援しました。

対象の概況

女性農村アドバイザー (OB 58名を含む)	73名
女性グループ (6グループ)	50名
経営参画や起業を希望する 女性農業者	10名

活動の内容

(1) 女性農業者のキャリア形成

- ・ キャリアプラン作成講座の開催
- ・ キャリアプラン (行動計画) 策定支援
- ・ 女性農業者活躍促進研修会の開催
(GAP現地視察研修会・地域活動情報交換会)

(2) 起業に向けた取組支援

- ・ 農産物加工等の起業を希望する女性農業者に対して、各種講座 (起業家育成塾・衛生管理講座・起業化研修会等) への参加誘導
- ・ 起業計画策定、専門家紹介等の支援



GAP現地視察研修会

成果

(1) 女性農業者のキャリア形成

- ・ 3年間で8名 (※2月以降確定見込) の女性農業者がキャリアプラン (行動計画) を策定。

(2) 起業に向けた取組支援

- ・ 農産物加工等で新規に8名が起業。
(一例：イチゴジャム、梨・ぶどうのジュース)



キャリアプラン作成講座

今後の取組

今後も関係機関と連携して、女性農業者向けの研修会の開催や個別支援を通じて、女性農業者の育成に取り組んでいきます。

水田農業の担い手の収入向上と経営改善

実施期間：平成30年度～令和2年度

近年米麦大豆の作柄が安定せず、水田農業の担い手の収入が減少傾向になっています。そこで、対象を重点化し、個別課題解決に向けた支援を行うとともに、関係機関と連携し、集落営農組織及び大規模経営体の経営力強化に向けて支援を行いました。

対象の概況

水田農業の担い手

単位：組織、経営体

集落営農組織		大規模経営体	
任意	法人	個別	法人
69	50	55	10

※大規模経営体の個別は夏作10h a以上
(R2年3月現在)

活動の内容

(1) 課題解決に向けた支援

- ・支援対象を20経営体に重点化
- ・個別面談による各経営体の課題の整理と目標の設定
- ・課題解決に向けた実証ほの設置
- ・中長期計画の策定支援

(2) 担い手の運営改善支援

- ・組織の運営強化のための生産組織リーダー研修会を開催
- ・集落営農法人の個別面談会の開催や法人間の情報交換の実施

(3) 法人化支援

- ・関係機関と連携し、法人化を推進
- ・水田農業経営アドバイザー事業を活用した専門家の派遣



生産組織リーダー研修会

成果

(1) 重点対象の経営力強化

- ・10経営体が個別の課題(後継者育成、組織運営の強化、法人化等)の目標を達成
- ・7経営体が中長期計画を策定

(2) 重点対象の収量改善

- ・大豆の収量では5経営体が地域平均の115%以上を達成
- ・麦の収量では3経営体が地域平均の120%以上を達成

(3) 法人化

- ・集落営農組織で1組織が法人を設立
- ・大規模個別経営体については、今年度1経営体が法人化の予定



集落営農法人の設立総会

今後の取組

重点対象に対して中長期計画の策定や実践に向けた支援を行います。

集落営農や大規模経営体について、関係機関と課題の共有化を行い、情報交換会や個別相談会を通じて経営改善につなげます。

葉菜類の夏期における安定生産

実施期間：平成30年度～令和2年度

葉菜類の栽培では、高温による生理障害（チップバーン、発芽不良）や害虫の発生、大雨による浸冠水被害により、夏期の収量が伸び悩んでいます。

そこで、高温対策技術の実証ほ設置や指針の策定により、夏期の安定生産技術の導入を支援しました。

対象の概況

組織名	戸数 (戸)	面積 (ha)
JAみい小松菜部会	17	33.2
JAみい水菜部会	13	12.0
JAくるめミズナ研究会	8	2.0
JAくるめサラダ菜部会	13	11.9
JAみい中国野菜部会	9	3.5

※R元年実績

活動の内容

(1) 実証ほの設置

- ・耐暑性品種の生育調査
- ・各種遮光資材の昇温抑制効果比較
- ・ビニル被覆による害虫防除効果
- ・酸素供給剤の浸水被害軽減効果



ビニル被覆の実証ほ

(2) 夏期安定生産技術の導入

- ・「夏期安定生産技術指針（第2版）」を活用し、高温対策技術の導入を支援

成果

(1) 安定生産技術の導入

- ・遮光資材や耐暑性品種の導入を推進

新たに安定生産技術を導入した農家数

	H29年		R2年
コマツナ	0戸	⇒	12戸
ミズナ	0戸	⇒	5戸
サラダ菜	0戸	⇒	13戸
チンゲンサイ	0戸	⇒	6戸

- ・新たに導入された技術の例
寒冷紗、光反射フィルム、循環扇、耐暑性品種、カルシウム剤の葉面散布など

(2) 新たな高温対策技術の効果実証

- ・遮光資材の種類による昇温抑制効果を確認
- ・有望な耐暑性品種を絞り込み



遮光ネットと循環扇の実証ほ

今後の取組

講習会や現地巡回で高温対策技術を紹介し、夏期の安定生産に向けて支援していきます。

ICT技術を活用した「あまおう」の収量向上と新規就農者の経営確立

実施期間：平成30年度～令和2年度

管内のイチゴ産地は、光合成促進装置や自動換気装置の導入がすすんでいるものの、これまで効果的な制御方法が確立されていませんでした。そこで、ICT技術を活用して高収量者のハウス内環境を調査分析し、産地全体の収量向上に取り組めました。

また、新規就農者に対して生産上の課題を明らかにし、経営の早期安定に向けた支援を行いました。

対象の概況

管内JAいちご部会のうち
環境制御機器※を導入
している農家

144戸

※光合成促進装置、自動換気装置、加温機のうち2つ以上

新規就農者
(H26～R1)

19戸

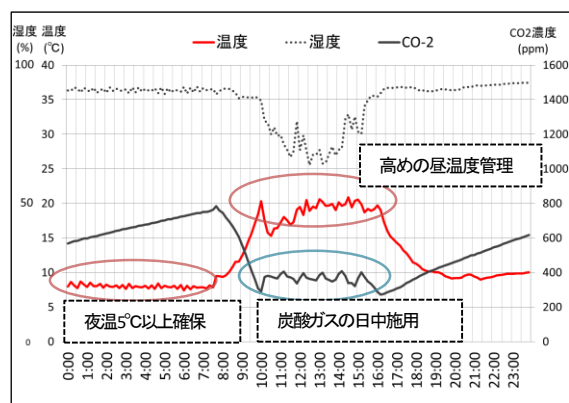
活動の内容

(1) ハウス環境の適正化による収量の向上

- ・高収量者ほ場の調査・分析
- ・環境改善実践ほ場の設置
- ・栽培講習会の開催
- ・合同技術者会の開催

(2) 新規就農者の経営確立支援

- ・経営確立支援相談会の開催
- ・現地個別指導の実施

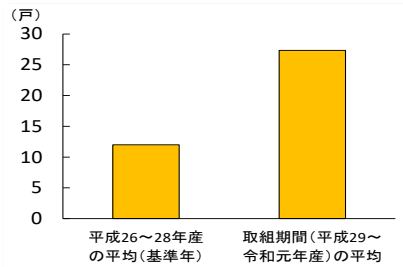


高収量者のハウス内環境（厳寒期）の分析例

成果

(1) ハウス環境の適正化による収量の向上

- ・ICT技術を活用し、高収量者の管理ポイントを分析、講習会等を活用して広く周知
- ・取組の結果、単収5t以上の農家数は大きく増加



5t/10a以上の農家数

(2) 新規就農者の経営確立支援

- ・市、JAと連携して経営確立支援相談会を開催。また、生産販売実績を基に生産上の課題を明らかにし、定期的な巡回指導を実施。
- ・取組の結果、19戸のうち11戸が目標所得を達成。



経営確立支援相談会

今後の取組

引き続きICT技術を活用し産地全体の単収向上を目指すとともに、規模拡大に意欲的な生産者に対して、雇用導入を前提とした経営体への移行を積極的に支援していきます。

花き花木及び鉢物の生産振興

実施期間：平成30年～令和2年度

久留米地域は優れた生産技術と独自の販路によって有利販売をしている県内一の花の産地ですが、近年、需要の減少等が問題となっていました。

そこで花き花木及び鉢物農家を対象に実需者ニーズを捉え、既存の栽培技術・育種を活用した新商品開発を支援しました。

さらに、新しい販路や売れる商品づくりを研究する組織を育成し、地域への波及を図りました。

対象の概況

組織名	戸数(戸)
JAくるめ鉢花部会	5
JAにじ鉢物部会	64
JAにじコンテナ部会	29
福岡あじさいの会(管内)	9
その他	122

活動の内容

(1)新しい花き商品開発支援

- ・管内の花き振興方策を検討するために、3地区の農業振興協議会合同会議を定例化
- ・花きの需要等を検討するために、久留米花卉農協と久留米普及センターとの連絡会を設置
- ・管内で生産された花きのPR活動を実施
- ・研修会等で品種登録状況等を紹介



PR活動 (JR久留米駅構内)

(2)新規商品開発研究組織の育成

- ・輸出を行うための研修会を開催

成果

(1)新しい花き商品を開発

- ・品種登録数が増加。
(品種登録申請数 H30～R2に24品種)

主な品種登録受理品種



アジサイ鉢物
(ルミナ)



バラ鉢物
(カーナハニーゴールド)

(2)新たな販路を研究する組織育成

- ・輸出を行う、あるいは輸出研究を行う農家組織「久留米植木輸出協議会(仮称)」を育成

今後の取組

今後も3地区の農業振興協議会合同会議や久留米花卉農協との連携強化を図ります。
「久留米植木輸出協議会(仮称)」が、関係課等と連携し、輸出促進に取り組んでいけるように支援を行います。

経営感覚に優れる花き・花木の青年農業者の育成

実施期間：平成30年度～令和2年度

全国に通用する花き・花木農家育成のため、研修会の開催や各組織に対する現地検討会・講習会を実施し、対象者の目標設定や課題の解決支援を行いました。

これらの活動により、認定農業者の共同申請や経営移譲がすすみ、青年農業者の経営参画へつながりました。

対象の概況

組織名	戸数（戸）
JAにじコンテナ部会青年部	10
JAにじ鉢物部会	8
JAみい切花若手生産者	8
JAにじ花部会	9
JAくろめ鉢物部会等	9

活動の内容

（1）経営参画に向けた資質向上支援

- ・経営参画をテーマとした研修会を3地区の農業振興協議会合同で開催
- ・個別カウンセリング、コンサの実施
- ・現地検討会、講習会の実施



講習会

成果

（1）青年農業者の経営参画

・個別カウンセリング、コンサの実施により認定農業者の共同申請へ誘導することができたため、新たに7名が認定農業者となった。また、経営移譲農家は3戸となった。



経営参画に係る研修会

今後の取組

今後は、現在の経営主（親世代）への取り組みも強化し、さらに青年農業者の経営参画を推進します。

市場ニーズに対応したブドウの種なし栽培の推進

実施期間：平成30年度～令和2年度

JAにじ管内では、近年の市場ニーズに対応して「ピオーネ」や「シャインマスカット」等の種なしブドウの栽培が年々増加しています。

そこで、種なしブドウの普及拡大をさらに進めるため、基礎的な技術を高める講習会活動を強化するとともに、新技術の導入促進を図るモデル展示ほの設置に取り組みました。

対象の概況

JAにじブドウ部会（230名、110ha）

種なしブドウ	14.1ha（73名）
内シャインマスカット	1.9ha（28名）

※ H29年度

活動の内容

（1）種なし栽培の拡大

- ・ 推進会議の開催
- ・ 新規植栽予定者講習会の実施
- ・ 管理講習会（ハウス、トンネル）の実施

（2）シャインマスカット栽培技術の確立

- ・ 技術導入検討会の開催
- ・ 管理講習会の実施
- ・ 展示ほの設置（品質平準化、品質向上）

樹の仕立て方
（6本主枝）



シャインマスカット技術導入検討会

成果

（1）種なし栽培の拡大

- ・ 種なし栽培面積（H29:14.1ha → R2:19.2ha）
- ・ シャインマスカット面積（H29:1.9ha → R2:5.2ha）

（2）シャインマスカット栽培技術の確立

- ・ 新技術の導入（H30: 0 → R2: 2）
 - ① フラスター散布による新梢管理の省力化
 - ② 着果調節時期の違いによる品質改善
- ・ 高単価商品割合の増加
一房バック率（H30: 32% → R2: 46%）



種なしブドウの着果状況

今後の取組

収益性が高い種なしブドウの普及拡大を管内全体に図るとともに、技術の高位平準化を進めて管内ブドウの産地ブランド力を高めていきます。

酪農経営における新規就農者の定着

実施期間：令和2～4年度

筑前町で平成30年4月に酪農経営を開始した新規就農者は、当初、飼養管理不足や猛暑により、乳量・乳質が低下し、飼養頭数も減少したため、経営状況が安定しませんでした。このため、関係機関で構成する支援会議の開催や定期的な巡回を通じて、飼養技術の指導や牛舎環境の改善指導を行い、経営の安定を図りました。

対象の概況

(R2年1～12月)

経産牛飼養頭数	生乳生産量	自給飼料面積
37.6頭	325t	600a

活動の内容

(1) 経営安定化支援会議の開催

・経営分析をもとに生産面や財務面の課題等を共有し、改善指導を実施

(2) 定期巡回、現地指導

- ・飼養管理技術の指導
- ・換気扇増設による暑熱対策
- ・自給飼料栽培指導
- ・堆肥処理施設の改善指導
- ・経営管理指導



従業員（左側）と経営主夫妻（右側）

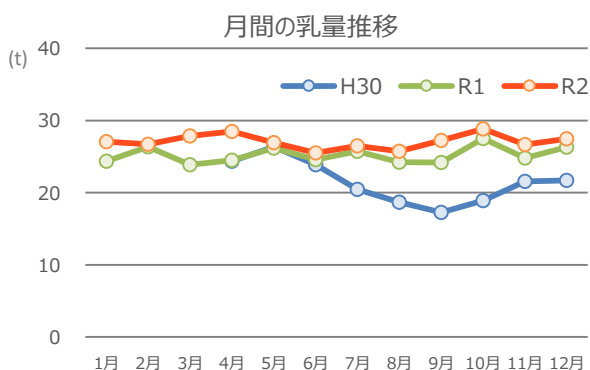
成果

(1) 飼養頭数が増加

・平均経産牛頭数
H30：30.6頭 R1：35.1頭 R2：37.7頭

(2) 乳量・乳質の改善

・出荷乳量
H30：193t R1：303t R2：325t



・平均体細胞数（/ml）
H30：24.1万 R1：15.3万 R2：16.5万

(3) 所得の確保

・青年等就農計画における就農5年後（R4）の目標生産量及び所得を早期に達成

今後の取組

引き続き、暑熱対策を中心とした飼養管理技術の指導を行うとともに、経営管理指導により、経営のさらなる安定化を図ります。

2 トピックス（注目の活動・技術の紹介）

No. 1

ドローンを活用した麦赤かび病防除効果と作業効率の確認

地域振興課 水田農業係

◆取組の概要

水田農業において、大規模化や法人化が進む一方、高齢化や担い手不足により管理農地の増大や人手不足の問題を抱えています。これらの問題を解決するためにドローンを活用して、農作業の効率化や軽労化を図る取組みが進められています。このため、現地でのドローン防除による作業効率や防除効果を実証し、導入効果の確認を行いました。

1 実証ほの構成

作物	区	散布機械	防除対象
小麦	試験区	ドローン (ヤマハYMR-08/C)	赤かび病
	対照区	乗用管理機	



麦赤かび病防除

2 赤かび病防除結果

- ・開花期の適期に散布されたため、赤かび病の発生はなく、防除効果が認められた。
- ・風速が2m/hrと弱かったため、薬剤が風で流れることはなかった。

3 作業効率等

【散布時間】

10a当たり 1分25秒

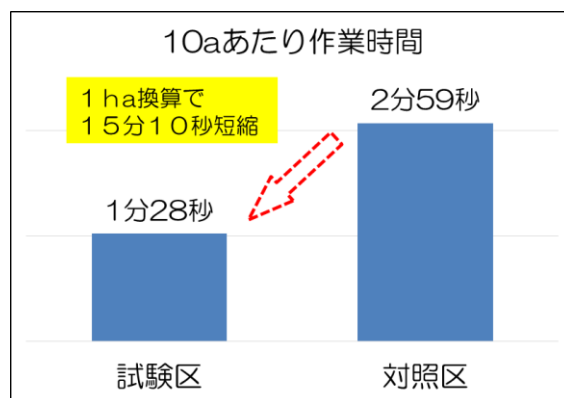
【農薬投入時間】

1回：20秒（10ℓタンク）

【バッテリー稼働時間】

15分 充電時間：2時間

※1フライトで1ha散布可能



◆良かった点

- ・散布量が少なく、水の運搬は楽になる。
- ・散布時間や農薬の投入時間は短くなる。
- ・旋回時に麦を踏み倒さず、タイヤ跡がつかない。

◆注意が必要な点

- ・バッテリー稼働時間が短く、充電時間が長いいため、1日の作業面積が限られる。
- ・風圧が弱く、薬剤が風で流されやすい。
- ・ドローン研修が必要なため、操縦できるオペレーターが限られる。

◆今後の取組

引き続きドローンを活用した他作物への防除や生育診断への応用など実証試験を重ねていきます。スマート農業研修会などで情報を発信をしていきます。

No. 2 葉菜類を生産する新規就農者の経営確立

野菜花き課 野菜第一係

◆取組の概要

普及指導センターでは農業所得の目標達成に向け、個別の生産指導や経営指導を行っています。

生産指導では、葉菜類を生産する新規就農者の生産安定を図るため、巡回指導を行い、栽培技術の向上を図りました。さらに、労力と経営面積に合わせた作付や作業計画の作成、時期ごとの病虫害防除、大雨冠水被害を始めとした突発的な気象への対策等、経営の状況に合わせた支援を個別指導では青色申告決算書を基に、経営状態の確認と課題の抽出を行い、市場単価や気象条件を考慮した品目の組合せや、経営拡大に向けた投資計画等、収益確保に向けた取組を行いました。また、労働力確保、農地確保、資金相談等について市・JAを始めとした関係機関と連携し支援を行いました。

計画的な作付実践や、経営規模に合わせた労力の確保、販売先の再検討（契約出荷先の確保等）により、収益を確保できる新規就農者が増加しています。



個別の経営指導

◆今後の取組

新規就農者の生産、経営の更なる安定に向け、技術と経営の両面から支援を行い、経営基盤の強化に向けて活動をしていきます。

No. 3

産地全体の技術力向上を目指しトマトの勉強会を開始

野菜花き課 野菜第二係

◆取組の概要

JAにトマト部会は、養液栽培において、ハウス内環境制御を行い、飛躍的に単位収量を伸ばしています。そこで、高収量を上げている生産者（以下、高収量者）の環境制御技術を産地全体に普及させ、さらなる収量向上を目指す勉強会を、高収量者の協力を得て新たに立ち上げました。

勉強会では、ほ場巡回の中で高収量者のハウス内環境を把握し、環境制御の方法や考え方を指導しています。また、管理作業の工夫も高収量者からアドバイスされるなど、技術力向上に向けた学びの場となっています。



ほ場巡回



ハウス内環境の比較

◆今後の取組

引き続き、技術力向上に向けた学びの場を提供し、経営発展を支援します。

No.4 柿園地におけるスマート農業を推進

果樹畜産課 果樹係

◆取組の概要

令和2年12月、JAにじ管内の柿園地において農業用ドローンおよびロボット草刈機の実演会を開催しました。

ドローンでは将来的な防除作業を想定した模擬散布を、ロボット草刈機では刈高が異なる数機種種の性能比較を行いました。

参加した柿部会員からは、ドローンの多様な散布モードや作業スピードに、ロボット草刈機の利便性と鳥獣の忌避効果に大きな関心が寄せられました。



柿園上空で模擬散布するドローン



ロボット草刈機による柿園の除草

◆今後の取組

スマート農機導入による管理作業の省力・短縮化が果樹農業へ波及していくよう、最新技術の情報収集・発信をしていきます。

No.5 第1回繁殖雌牛集合審査会を開催

果樹畜産課 畜産係 (久留米地域和牛改良組合)

◆取組の概要

本年度は秋に予定されていた県の繁殖雌牛の共進会が中止となりましたが、「久留米地域和牛改良組合」では衛生対策を講じた上で、組合員の牧場敷地内において「第1回繁殖雌牛集合調査会」を開催しました。

(公社)全国和牛登録協会他から講師を招き、組合員の育てた若雌牛10頭をそれぞれの月齢に応じて審査いただきました。講師から1頭1頭「優れた点」「足りない点」について、対象の牛を見ながら解説・改善アドバイスを受け、直にプロから牛について学ぶ充実した良い機会にもなりました。



審査状況 (若雌1区1席牛)



良い「触感」の確認

◆今後の取組

繁殖雌牛の改良・飼養管理の向上に努め、組合員間の情報共有や相互研鑽を積み重ねて2022年10月鹿児島和牛全共“種牛の部”初出品を目指します。

3 参考資料

(1) 受賞実績

令和2年4月から令和3年3月までの期間で県域以上の規模による表彰事業において表彰を受けた代表的な個人・組織

表彰事業名	受賞者・組織名	受賞名（賞区分）	市町
令和2年度農山漁村女性活躍表彰 （若手女性チャレンジ部門）	角 美紗	経営局長賞	久留米市
令和2年度全国麦作共励会 （九州ブロック審査委員会） 令和2年度福岡県麦作共励会 （集団の部）	農事組合 花立	全国米麦改良協会会長賞 最優秀賞 （福岡県農業協同組合 中央会会長賞）	小郡市
ジャパンフラワーセレクション2020 日本フラワーオブザイヤー2020	棚町 満	フラワーオブザイヤー （最優秀賞）	三井郡 大刀洗町
令和元年度生乳増産奨励事業 （500t以上の部）	永田 弘	第1位	久留米市
第56回福岡県肉畜共進会 （和牛の部）	浅野畜産	金賞 農林水産大臣賞	久留米市

**表彰名：令和2年度農山漁村女性活躍表彰
若手女性チャレンジ部門 経営局長賞
受賞者：角 美紗（久留米市）**

農山漁村男女共同参画推進協議会が主催する令和2年度農山漁村女性活躍表彰事業にて、久留米市の角美紗さんが経営局長賞に輝きました。

本事業は農林水産業における若手女性農業者の活躍事例に関する表彰です。

角氏が中村果樹園の4代目として就農してから取り組んだ、新規品目（イチゴ、ブドウ）の導入やカフェの開業、SNS等を活用したPR戦略、お客様に喜ばれる観光果樹園づくり等が評価されたものです。



女性農業者に研修を行う角氏

**表彰名：令和2年度全国麦作共励会九州ブロック審査委員会
全国米麦改良協会会長賞
令和2年度福岡県麦作共励会（集団の部）
最優秀賞、福岡県農業協同組合中央会会長賞**
受賞者：農事組合法人 花立（小郡市）

麦の生産振興を目的として、生産技術や経営改善の面で先進的な農家を表彰する「令和2年度福岡県麦作共励会」の集団の部において、農事組合法人花立が、最優秀賞（県知事賞）と、福岡県農業協同組合中央会会長賞を受賞しました。また、その結果を受け、全国麦作共励会に推薦され、九州ブロック審査委員会において全国米麦改良協会会長賞を受賞しました。

農事組合法人花立は、排水対策の徹底や、土壌診断に基づく土づくりの実施、理事らによるほ場の丹念な巡回を行い、管内でもトップクラスの収量と品質を達成しており、今回の受賞は、このような取組みが高く評価されたものです。



並びに令和2年度福岡県麦作共励会表彰式
受賞された農事組合法人花立

**表彰名：ジャパンフラワーセレクション2020
日本フラワーオブザイヤー2020
フラワー・オブ・ザ・イヤー（最優秀賞）**
受賞者：棚町 満（三井郡大刀洗町）

棚町満氏は、中輪系クラシックローズの育種で知られるバラの生産者です。これまでに10品種ほどを育成し、花き小売店からは、多様な用途に使えると高い評価を受けています。

棚町氏が育成したバラが、全国規模の花き新品種コンテスト、ジャパンフラワーセレクション2020において、最優秀賞を受賞しました。最優秀賞を受賞した「ブライダルマカロン」は、小中輪系のスプレーバラで、側枝の花も咲かせるため花数が多く、1本でもボリュームがあり華やかです。また、芽かき作業の大幅な削減が期待できます。

とげなしで使い勝手が良く、葉の大きさと花とのバランスが優れており、アレンジからブーケまで用途の幅が広い品種として高く評価されました。



最優秀賞「ブライダルマカロン」

表彰名：令和元年度生乳増産奨励事業 500t以上の部 第1位
受賞者：永田 弘（久留米市）

九州生乳販売農業協同組合連合会が主催する令和元年度生乳増産奨励事業の「500t以上の部」で久留米市の永田弘牧場が第1位に輝きました。

当牧場は、平成30年度に畜産クワスター事業を活用し、次世代閉鎖型牛舎、搾乳ロボットなどの新技術を導入したことにより、飼養頭数、出荷乳量を拡大したことが高く評価されました。



永田弘ファミリーと従業員

表彰名：第56回福岡県肉畜共進会 和牛の部 金賞
農林水産大臣賞
受賞者：（株）浅野畜産（久留米市）

令和2年10月1日に第56回福岡県肉畜共進会が全農ミートフーズ株式会社で開催され、久留米市の（株）浅野畜産が「和牛の部（出品頭数61頭）」において金賞と農林水産大臣賞を受賞されました。

受賞牛の枝肉は、枝肉重量が558.7kg、BMSナンバーが12でサシの入りが素晴らしく、更にロース面積98cm²、バラの厚10.5cmともに大きくバランスが良いと高く評価されました。



浅野牧場社長と従業員の皆さん

(2) 気象の概況

● 気象概況

令和2年の管内の気象は、年平均気温は17.5℃（平年16.3℃）と高く、年間降水量は2,779mm（平年1,848mm）と多く、日照時間は2,102時間（平年1,972時間）と平年より長くなりました。

気温は、3月まで記録的な暖冬で推移したほか、8月も猛暑であった一方、4月および7月は低温で推移しました。全体としてはおおむね平年並み～やや高めで推移しました。

降水量は、6月上旬まで少雨傾向で推移しましたが、7月5～11日に総雨量772.0mmという記録的な豪雨がありました。9月以降はおおむね平年並み～やや少雨傾向で推移しました。

日照時間は、平年並みかそれ以上の月が多く、年間を通して多く推移しましたが、1月、7月、9月は短く推移しました。

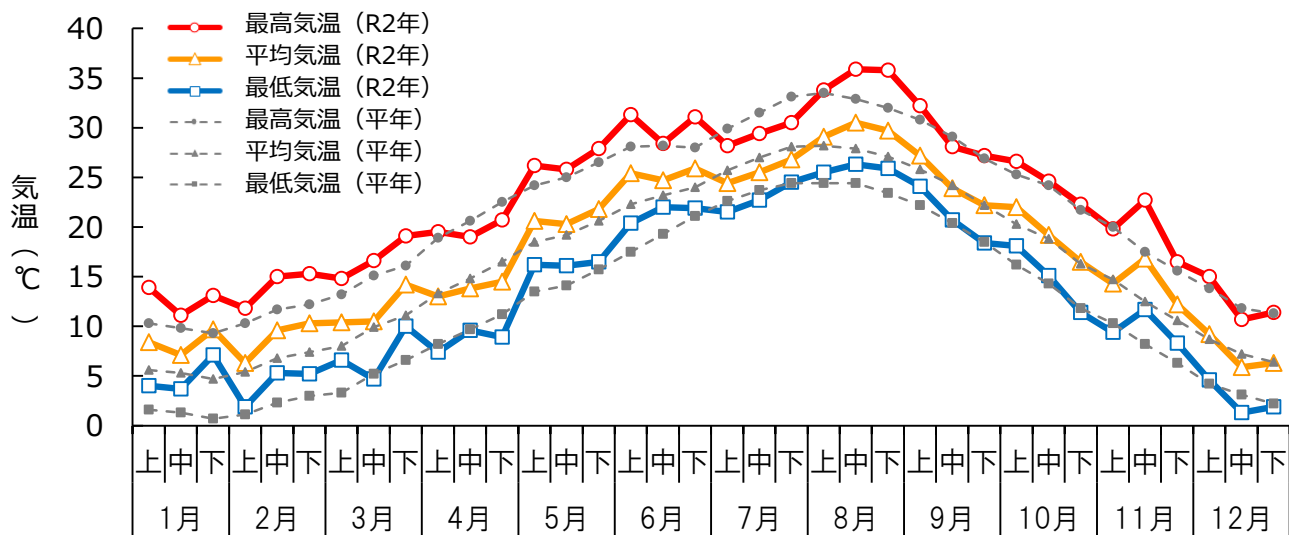


図1 アメダス（久留米市）旬別気温の推移

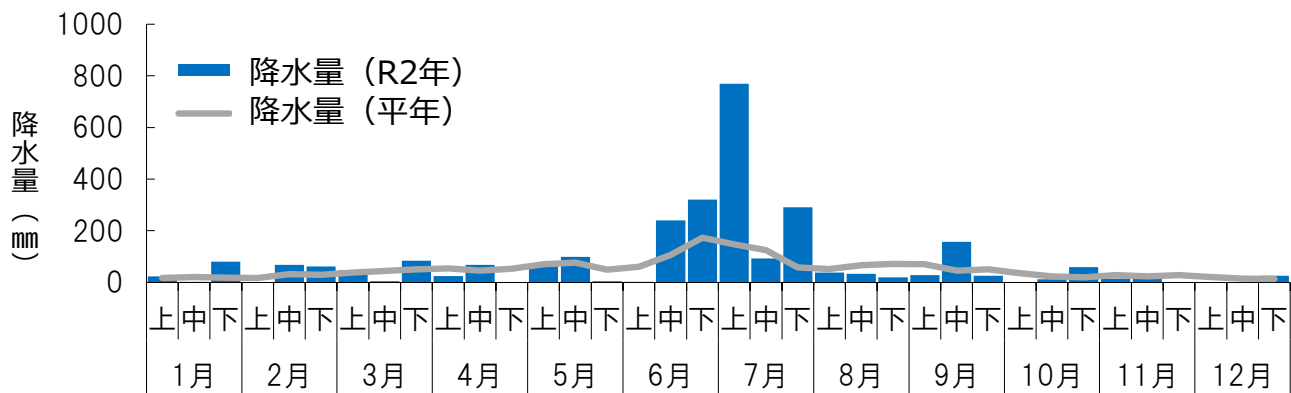


図2 アメダス（久留米市）旬別降水量の推移

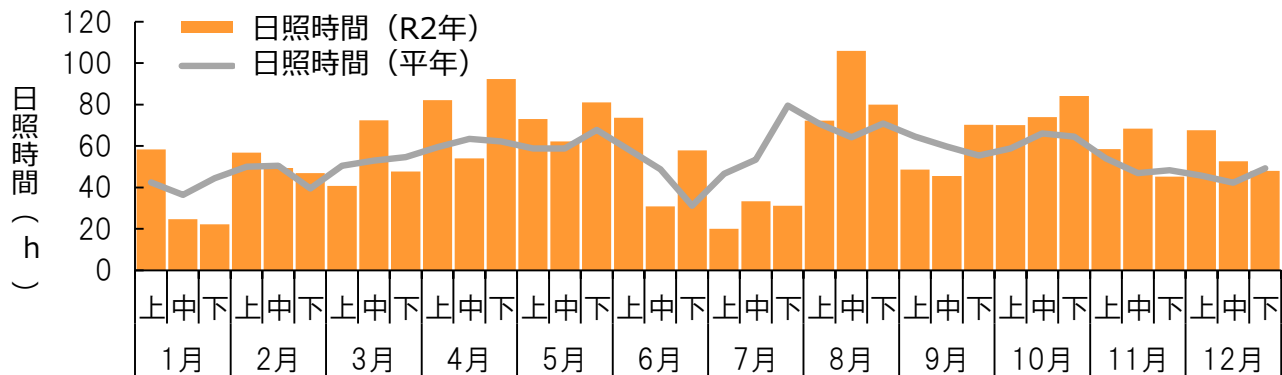


図3 アメダス（久留米市）旬別日照時間の推移

●自然災害の概要

◆気象の状況

7月は、長期にわたり梅雨前線が本州付近に停滞し、西方と南方から流入する大量の水蒸気が九州を中心に西日本から東日本にかけて集まりやすい状態が続いたことなどが原因で、東北地方から西日本にかけて広い範囲で記録的な大雨や日照不足となりました。特に3日から8日にかけては、九州で多数の線状降水帯が発生しました。

6日から8日にかけては、福岡県南部でも局地的に猛烈な雨が降り、気象庁は6日16時30分から7日11時40分まで、福岡県に大雨特別警報を発表しました。

また、9月3日未明に台風9号、9月7日午前台風10号が立て続けに上陸しました。

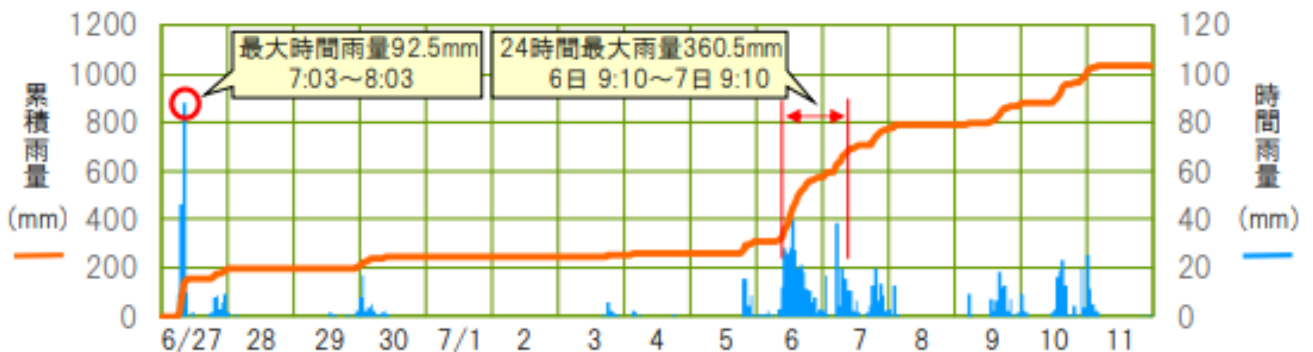
◆大雨の状況

管内においては、6月27日には時間最大雨量が92.5mm（観測史上最大）、24時間雨量193.5mmを記録しました。また、7月5日～11日までの総雨量は772.0mm（久留米市の7月平年降水量は329.4mm）、24時間最大雨量は360.5mm（観測史上最大）を記録するなど猛烈な雨が続きました。（数値は全て久留米アメダス）

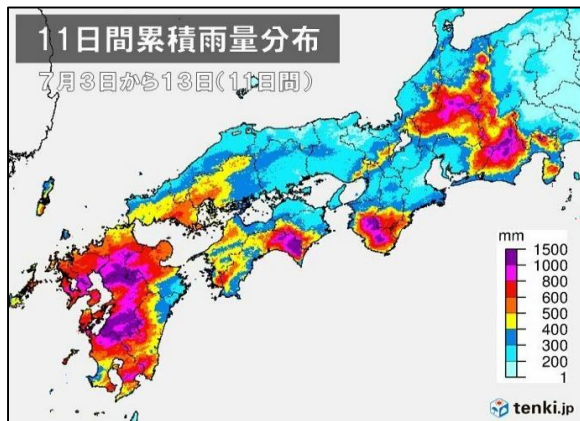
◆河川の状況

令和2年7月の豪雨により、管内を流れる筑後川水系では、筑後川や巨瀬川等、多くの河川が氾濫危険水域を超過しました。これに伴い、管内各市町では緊急避難指示及び避難勧告が発令されました。

累積雨量・時間雨量図(アメダス久留米)



時間雨量及び累積雨量（出典：久留米市役所ホームページ）



7月豪雨の累積雨量分布
(出典：日本気象協会)



冠水した久留米市街地

●自然災害に関する普及指導センターの対応

令和2年7月豪雨および台風9号・10号発生後、久留米普及指導センターでは被害に遭われた生産者への支援として下記のような対応を行いました。

◆普及指導センターの対応（一部抜粋）

【相談窓口設置】

・来庁、電話などを通じて技術面、経営面に対する各種相談に対応

【技術対策】

- ・災害発生前後に技術対策資料を配布
- ・野菜を中心に現地巡回指導による病害虫防除や土壌消毒、まき直し等の指導
- ・各生産部会の対策会議で栽培技術対策の指導および国県の支援策等の情報提供（主な配布資料）
- ・注意喚起と浸・冠水を想定した事前対策や災害発生後の事後対策
- ・大雨後の技術対策情報の発出（泥の洗い流し、殺菌剤散布、排水、葉面散布等）
- ・大雨後の技術対策第2報（土壌消毒、まき直し、施肥、防除技術等）
- ・品目ごとに技術対策資料を作成し配布

【経営対策】

・関係機関と連携し、災害資金の融資や既貸付金の償還猶予など資金面の相談対応

【相談会等での対応】

・管内各地での相談会での技術対策、短期融資、資金相談会など



大雨により冠水したキュウリハウス



大雨により冠水したイチゴ苗ハウス

台風9号の接近に伴う「いちご」の技術対策

令和2年8月31日
久留米普及指導センター

大型の台風9号が勢力を強めながら北上しています。九州北部には、9月2日から3日にかけて最接近する恐れがあります。今後の進路に注意し、事前の準備をお願いします。台風接近に伴い大雨となる可能性もありますので、排水対策も忘れずに行ってください。

○事前準備

- ・育苗中の苗は、寒冷紗や防風ネットをべた掛けしてしっかりと固定するか、コンテナに入れて、寒冷紗被覆あるいは納屋等で保管する。
- ・棚式育苗のパネルや架台をしっかりと固定する。
- ・かん水チューブは風であおられ、葉の損傷を大きくするので片づけておく。
- ・頭上灌水用の塩ビパイプがある場合は、あおられないよう、また、破壊を防ぐために固定しておく。
- ・遮熱対策で寒冷紗を被覆しているところは除去する。
- ・雨除けで育苗している場合、強風が予想される際には被覆ビニルを除去する。
- ・強風で飛ばないように、ほ場周辺も含めて飛びそうなものを片づけておく。

「あまおう」の管理（大雨後対策）

令和2年7月7日
久留米普及指導センター

7月6日から7日の大雨により、一部で苗やほ場、施設が冠水しています。「炭そ病」や「疫病」の発生、根腐みの発生が懸念されます。今後も断続的な降雨が予想されているため、苗の草勢回復を図るとともに、薬剤による防除の徹底を図ってください。

◀苗床が冠水した場合▶

- ・苗床に水が溜まっている場合は、速やかに排水する。
- ・冠水した苗の泥等の洗い流し及び病害予防のため、大雨の後に殺菌剤を登録範囲内の低濃度（葉害防止のため）で希釈し、全面に散布する。
- ・特に、生長点に土砂がついている場合はイチゴメセンチュウ等の発生が懸念されるため、動噴等で念入りに洗い流す。
- ・苗に傷みが見られる場合は、液肥の葉面散布や発根剤を3～5日おきに施用し、回復を促す。（葉面散布剤使用例 DK-F-1：1,000倍、メリット青：1,000倍）

普及指導センターが情報提供した技術資料（一部抜粋）

(3) 主な展示ほ概要

対象作物	課題名	市町村	結果の概要
大麦 (ビール麦)	ビール大麦新品種「はるさやか」収量向上のための施肥法の検討	大刀洗町	「はるさやか」の2回追肥は、1回追肥に比べて穂数、千粒重が増加し、収量が12%増加した。また、タンパク質含有率も増加し、適正値に近づいた。
大豆	大豆新品種「ちくしB5号」の高品質・安定栽培技術の確立	うきは市	「ちくしB5号」は慣行の「フクユタカ」と比べて、やや収量が高かったが、収穫ロスが多い傾向であった。また、基肥に塩化コートやマイティーツイを施用すると、慣行の基肥である塩化加里を施用するよりも、収量が5～9%高かった。
大豆	難防除雑草（アサガオ類）の防除方法の検討	久留米市	<p>【7月播種の結果】 トレファンサイド乳剤を播種前に土壌混和する方法、またはパワーガイザー液剤を大豆の出芽直前～本葉3葉期にアサガオ類に散布する方法により、アサガオ類の発生または生育を抑制することができ、中耕との組み合わせにより、アサガオ類の発生密度を低下させることができた。</p> <p>【8月播種の結果】 パワーガイザー液剤は、アサガオ類本葉2葉期以下に散布すると枯死または生育抑制がみられたが、アサガオ類本葉3葉期以上には生育抑制がみられなかった。パワーガイザー散布後、中耕と組み合わせることでアサガオ類の発生密度を低下させることができた。</p>
タマネギ	タマネギ栽培における施肥の省力化及び適期肥効による生育の安定	久留米市	展示区としてLP複合555A-60を施用した。収穫物調査では慣行肥料と同等以上の重量であった。作業性として展示区の追肥作業を3回削減できた。

対象作物	課題名	市町村	結果の概要
ナス	夏秋ナスにおける緩効性肥料による追肥作業省力化の検討	うきは市	<p>緩効性肥料は、追肥作業の省力化と肥料コストの削減につながった。</p> <p>肥効が持続したので、期間を通して収量、品質が安定した。</p>
キク	キクにおける新農薬の効果検証	久留米市	<p>新農薬「ファインセーブフロアブル(アザミウマ類)」の散布試験を行った。結果は既存の薬剤と同等の防除効果があることが分かった。</p>
カキ	カキ「秋王」の果実品質向上対策技術の検証	久留米市	<p>新梢管理が、「秋王」の果実品質向上に及ぼす影響について検証した。</p> <p>花弁や果実に接触する枝葉、生理落果した果梗の除去は、傷果の発生を軽減させ、果実品質の向上に効果があることが認められた。また、8月下旬までは新梢管理なしでも傷果の発生が少なかったことから、新梢管理の適期は9月以降である。</p>
ナシ	ナシにおける新農薬の効果検証	うきは市	<p>新農薬「カナメフロアブル(黒星病)」、「ヨーバルフロアブル(シンクイムシ類)」の散布試験を行った。結果、両薬剤とも既存剤と同等の防除効果があることが分かった。</p>
ナシ	「玉水」の成熟期判定	うきは市	<p>県育成品種「玉水」の収穫適期を判定する方法を検討した。果皮色、果皮のざらつき等の外観品質、果肉のヨード反応から、「玉水」の収穫適期は満開後の有効積算温度が2,466～2,578℃の範囲内にあることが分かった。</p>

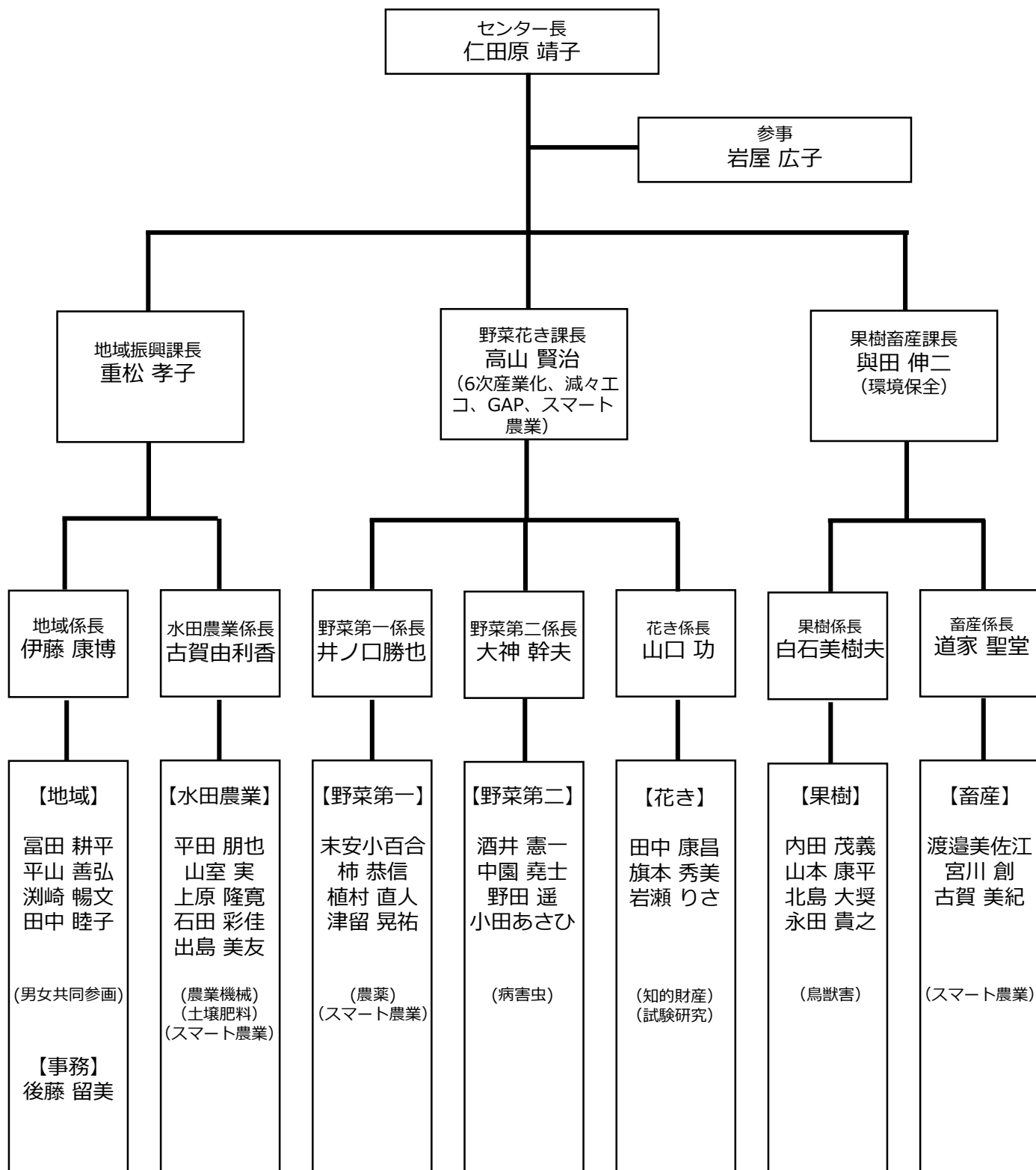
(4) 普及指導センター活動情報一覧

普及指導センターがホームページなどで広く提供した資料です。

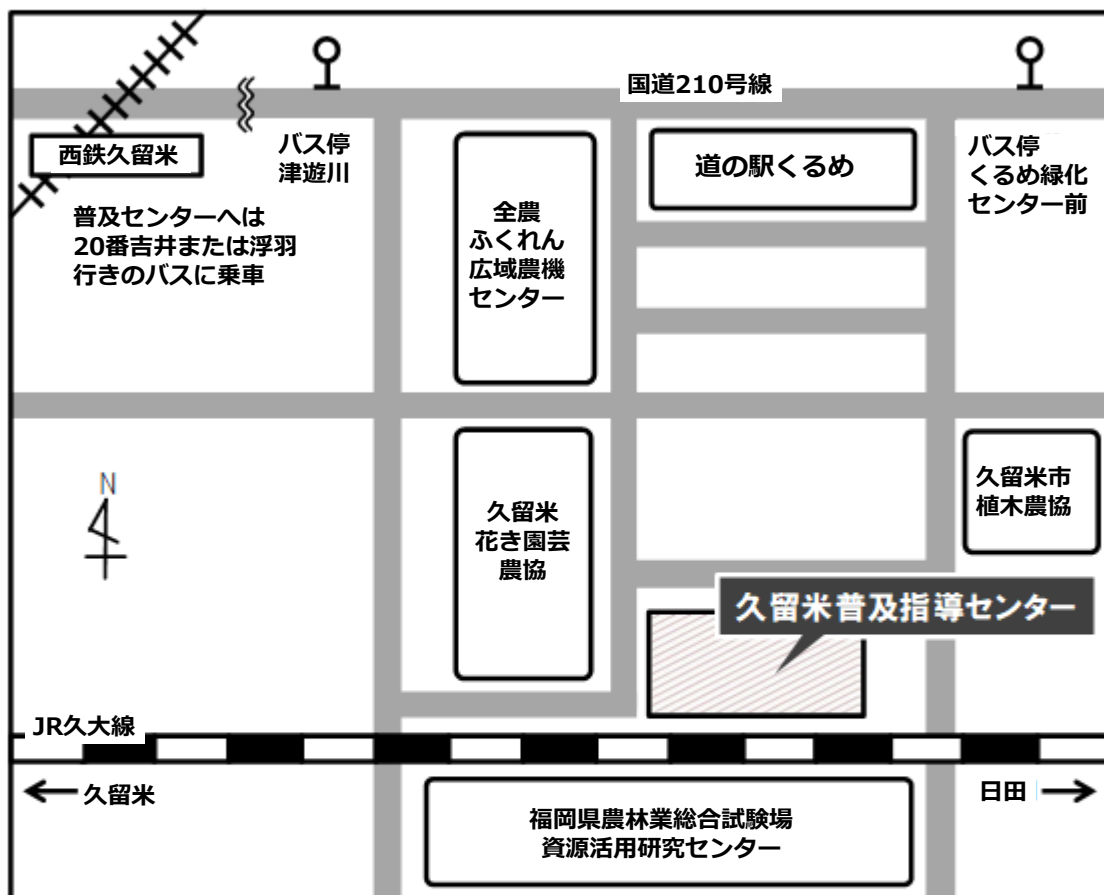
No	タイトル	担当係	発行日
1	イチゴの収穫作業の負担軽減に向けた取組みを支援	野菜第二係	4月7日
2	次世代酪農経営モデル牧場で省力化を実現	畜産係	5月21日
3	「秋王」の収量増加を目指して！！	果樹係	6月10日
4	キウイフルーツの高品質生産を目指して	果樹係	6月16日
5	新型コロナウイルスに打ち勝つ！花き振興策を三地区合同で検討	花き係	6月30日
6	女性農業経営者の育成を目指して！！	野菜第一係	7月8日
7	小学生のブドウづくり体験教室を支援	果樹係	7月10日
8	シンテップウユリ三地区合同講習会	花き係	7月13日
9	3年連続収量県内1位を目指して	水田農業係	7月21日
10	新規就農者の基礎力向上を目指して	野菜第一係	8月18日
11	若手農家の水稻栽培の技術向上を支援	水田農業係	8月20日
12	活躍する女性農業経営者を育成します！！	地域係	8月31日
13	農業機械実演会と農作業安全講習会を開催	水田農業係	9月2日
14	雇用型経営の発展に向けて「働き方改革」を進めよう	地域係	9月7日
15	女性農業者のマルシェ出店に向けて支援	地域係	9月10日
16	城島稲作研究会、出穂期の巡回	水田農業係	9月16日
17	令和2年産のカキの出荷が始まりました！	果樹係	9月18日
18	トルコギキョウの土壌病害対策検討会を開催	花き係	10月6日
19	トマトの安定経営に向け個人面談を実施	野菜第二係	10月6日
20	稲作交流田で消費者が刈取り体験	水田農業係	10月28日
21	スマート農業技術の普及を目指して	野菜第一係	11月2日

No	タイトル	担当係	発行日
22	イチジクほ場品評会	果樹係	11月6日
23	農業機械の仕組みと農作業安全を学ぼう！	果樹係	11月6日
24	果樹苗木農家が経営の基礎を学ぶ	果樹係	11月12日
25	農大生に管内の農業・就農支援策を紹介	花き係	11月16日
26	花あふれるプロジェクト in 久留米！	花き係	11月16日
27	安全な農作業のために	野菜第一係	11月16日
28	柿の収穫作業に新たな雇用のカタチを！	果樹係	11月24日
29	「あまおう」の高品質・安定生産を目指して	野菜第二係	11月26日
30	コロナに負けない！繁殖雌牛集合調査会を開催	畜産係	11月27日
31	若手農業者が地域農業のリーダーを目指す！	水田農業係	12月15日
32	女性農業者の更なるステップアップを目指して	地域係	12月16日
33	農業経営スキルを身につけるために	水田農業係	12月22日
34	JAにじトマト部会で新たに勉強会をスタート	野菜第二係	12月23日
35	クリスマスに向けて花をアピール！	花き係	12月24日
36	今こそ柿園地の『土』の見直しを！	果樹係	1月6日
37	スマート農機活用で果樹農業の未来を拓く！	果樹係	1月6日
38	新規就農者が基礎力向上に向けて学ぶ	花き係	2月1日
39	花あふれるプロジェクト in 久留米 第2弾！	花き係	2月8日
40	農業経営者として成長するために	野菜第一係	2月8日
41	花のある暮らしを提案	花き係	2月8日
42	新たな労働力確保による産地の維持・発展を目指す	野菜第二係	2月8日
43	花き若手生産者のスキルアップ支援	花き係	2月12日
44	夏秋ナスの省力化とコスト低減に向けて	野菜第二係	2月22日

(5) 普及指導センターの活動体制



● アクセス



交通 西鉄バス 津遊川下車、徒歩10分
久留米ICから車で15分

所在地 久留米市山本町豊田1506-19

電話 0942-47-5101

FAX 0942-47-5105

福岡県行政資料	
分類番号 PA	所属コード 4703224
登録年度 02	登録番号 0001